

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	武蔵野大学
設置者名	学校法人武蔵野大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本文学文化学科	夜・通信	5	0	10	15	13	
グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科	夜・通信		0	11	16	13	
	日本語コミュニケーション学科	夜・通信		0	12	17	13	
	グローバルビジネス学科	夜・通信		0	12	17	13	
法学部	法律学科	夜・通信		0	10	15	13	
	政治学科	夜・通信		0	10	15	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		0	10	15	13	
	経営学科	夜・通信		0	10	15	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		0	10	15	13	
	会計ガバナンス学科	夜・通信		0	10	15	13	
アントレプレナーシップ学部	アントレプレナーシップ学科	夜・通信		0	9	14	13	
データサイエンス学部	データサイエンス学科	夜・通信		0	10	15	13	
人間科学部	人間科学科	夜・通信		0	10	15	13	
	社会福祉学科	夜・通信		0	10	15	13	

工学部	サステナビリティ学科	夜・通信		0	10	15	13	
	環境システム学科	夜・通信			10	15	13	
	数理工学科	夜・通信			10	15	13	
	建築デザイン学科	夜・通信			14	19	13	
教育学部	教育学科	夜・通信		0	11	16	13	
	幼児教育学科	夜・通信			9	14	13	
薬学部	薬学科	夜・通信	0	0	21	21	20	
看護学部	看護学科	夜・通信	3	0	13	16	13	
通信教育部 (人間科学部)	人間科学科	夜・通信		10	218	228	13	
通信教育部 (教育学部)	教育学科	夜・通信		10	88	98	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>大学 WEB サイトで公表している。</p> <p>【通学制】 https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/</p> <p>【通信制】 http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/syllabus</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	武蔵野大学
設置者名	学校法人武蔵野大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページで公開
<https://www.musashino-u.ac.jp/guide/musashino-u/executive.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人理事長	2022. 4. 1 ～ 2025. 3. 31	理事長及び常務理事の職務の執行状況の監督・評価等
非常勤	弁護士	2023. 6. 1 ～ 2026. 5. 31	コンプライアンスのチェック
(備考) 学外者は上記の他に7名、合計9名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	武蔵野大学
設置者名	学校法人武蔵野大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【通学制】</p> <p><作成過程・公表に係る取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに、授業科目の実施形態及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、予習と復習の具体的な内容、授業計画、教科書、ICTの活用状況、実務経験のある教員等による授業科目などを記載し、つぎの手順に基づき作成している。 <p>① 科目担当教員にシラバス作成依頼 ② 学科長、研究科長校正 ③ 学生公開に向けたシステム設定等 ④ 学生公開</p> <p><スケジュール></p> <p>2022年12月12日(月)～2022年1月31日(火) シラバス入力期間 〆</p> <p>2月上旬～2月中旬 学科長校正・研究科長校正 2月下旬～3月上旬 学生公開に向けたシステム設定等 3月2日(木) 学生公開</p> <p>【通信制】</p> <p>全ての授業科目において、授業科目の授業方法、到達目標、テキストの概要、授業計画、成績評価の方法を具体的に記載している。 シラバス執筆教員へは上記必要事項を記載するよう案内し、教学システムを用いて漏れのないよう管理・整備している。 シラバスは前年度中に作成し、インターネット上に公表をしている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>【通学制】</p> <p>https://muscat.musashino-u.ac.jp/portal/slbssrch.do?clearAccessData=true&contentnam=slbssrch&kjnmnNo=10</p> <p>【通信制】</p> <p>http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/syllabus</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【通学制】

<学修成果の評価方法>

- ・主に「筆記試験」「レポート」の学修成果を元に判定している。その他の評価方法として「小テスト」「授業内で発表した内容（プレゼン）」等も評価に含まれる場合がある。

<学修成果の評価基準>

- ・試験等の学修成果に基づき「S.A.B.C.D.X」で評価している。
なお、評価の基準については、大学 WEB サイトにて公開されている。

■評価基準の公開 URL

<https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/guide/8-grade-faculty/>

<単位の付与、履修の認定>

- ・事前にシラバスにて学生に提示し、かつ大学 WEB サイトにて公開していると通りの基準・方法にて厳格かつ適正に運用されている。

【通信制】

学修成果の評価方法は、主に「単位認定試験」の実施により判定する。

学修成果の評価基準は学修成果に基づき「S~X」の範囲で設定されている。

なお、評価方法及び評価基準については、本学の HP にて公開されている。

単位の授与、履修の認定に関しては、事前に学生に提示しかつ大学 HP にて公開しているとおり、あらかじめ設定した基準・方法にて厳格かつ適切に運用されている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【通学制】

<GPAの算出方法・実施状況等>

- ・評価それぞれに成績ポイント（Sを4.0ポイント、Aを3.0ポイント、Bを2.0ポイント、Cを1.0ポイントD、Xを0ポイント）を設定し、その成績ポイントに科目の単位数を乗じた値の合計を、履修単位数の合計で割って GPA を算出する。（小数点第3位以下は切り捨て）
- ・GPAの算出は、各学期（1 - 4学期）の成績確定後に実施する。

<成績分布状況の把握>

- ・成績分布については、資料を作成し内容を把握している。
また、作成した資料を学科長に共有している。

【通信制】

学修の到達度を評価するために GPA 制度を導入している。GPA は、履修した科目の評価（S~X）を成績ポイントに置き換えて学習到達度を客観的に評価し、学習指導等に活用している。

GPA 算出方法

GPA = [科目単位数×成績ポイント（S=4 A=3 B=2 C=1 D=0 X=0）の合計]

／総履修単位数 [履修単位数の合計] ※小数点第3位以下切り捨て

客観的な指標の 算出方法の公表方法	<p>【通学制】 https://risyuyouran.musashino-.ac.jp/faculty/guide/8-grade-faculty/</p> <p>【通信制】 http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/grade</p>
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【通学制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部、学科にて策定されたディプロマ・ポリシーや卒業の認定に関する方針（卒業の要件）に基づき、つぎの手順で卒業の判定を行っている。 <p><卒業の認定に関する方針></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学に4年以上（薬学部は6年以上）在学していること（ただし、全ての学年で1年以上在籍すること） 2. 各学部において定められた教育課程を履修し、卒業に必要な単位を修得していること 3. 本学において定められた学費を納入していること 4. 在学期間における成績平均値（総合GPA）が2.00以上（小数第3位以下切り捨て）であること <p><卒業の判定に関する手順・実施状況等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、つぎの手順に基づき卒業の認定を行っている。 <ol style="list-style-type: none"> ① 4学期、後期、通年開講科目の成績提出 ② 事務にて卒業要件の精査、判定資料作成 ③ 各学部の教授会にて審議、判定 ④ 卒業の認定 <p><適切な実施に係る取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学のHPにて公開されている卒業の認定に関する方針（卒業の要件）について、事務にて要件の充足を精査したのち、各学部にて策定されたディプロマ・ポリシーに基づき、教授会にて厳格な卒業の判定を行っている。 <p>【通信制】</p> <p>学部ごとに学位授与の方針（ディプロマポリシー）を策定し公表している。卒業要件は学科・専攻・専修および入学区分（1年次入学／2年次編入学／3年次編入学／4年次編入学）により異なるため、各専攻・専修ページで公表している。要件を満たした者には、学長が通信教育部委員会の意見を聴き、学長が卒業を認定し、学位を授与している。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>【通学制】 https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/guide/10-graduation-requirements-faculty/</p> <p>【通信制】 http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/policy</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	武蔵野大学
設置者名	学校法人武蔵野大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.musashino-.ac.jp/guide/information/
収支計算書又は損益計算書	https://www.musashino-.ac.jp/guide/information/
財産目録	https://www.musashino-.ac.jp/guide/information/
事業報告書	https://www.musashino-.ac.jp/guide/information/
監事による監査報告(書)	https://www.musashino-.ac.jp/guide/information/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和5年度事業計画 対象年度:令和5年度)
公表方法:大学ホームページにて公開 (https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/)
中長期計画(名称:学校法人武蔵野大学第一次長期計画 -MU VISION 2030- 対象年度:令和2年度~令和12年度)
公表方法:大学ホームページにて公開 (https://www.musashino-u.ac.jp/guide/musashino-u/muvision2030.html)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/inspection.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/accredited.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、文学を学び、文化を理解し、社会で活躍できる表現・伝達能力を身につけた人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html ）
（概要） 文学部では、所定の卒業要件を満たし、かつ、社会人として必要な教養及び日本の言語・文学・文化についての専門的知識を身につけ、社会的に活用する力を獲得した者に学士（文学）の学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html ）
（概要） 文学部では、社会人として必要な教養や知識を身につけるための「武蔵野 INITIAL（全学共通基礎教育課程）」と各自の専門を深めるための「学科科目」及び「資格科目」によって教育課程を編成する。更に学科科目は、自主的な勉学態度を養うことができるよう、文学と文化の 2 つのジャンルを設置し、学生各自の興味・関心、能力・将来に応じたジャンル選択が可能なカリキュラムとする。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html ）
（概要） 文学にゆかりの深い武蔵野の地で、文献講読と学外学修の双方から広義の文学を総合的に学び、豊かな感性と構想力を育み、読解力、表現力、創造力、批評力を養います。入学を希望する人には、以下のような志を有する学生を期待します。 文学、文化、言語、芸術などを幅広く学び、価値観や考え方の違いを受け入れ、高度情報化・グローバル化の時代に自らの場所を見つけて活躍したいと願う人 本学の伝統を理解し、高い目標を掲げ、希望と夢を抱いて人生を歩んでいきたいと願う人 読書と思索、鑑賞と創作を通して、世界を豊かに想像／創造するクリエイティビティを身につけたいと願う人

学部等名 グローバル学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、複数の言語を駆使し、多様な学生や多文化との関わりの中で、広い視野をもってグローバルな視点から問題発見・課題解決ができる人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html ）
（概要） グローバル学部では、所定の卒業要件を満たし、グローバル社会で活躍するのに必要な国際性・国際感覚や異文化理解能力・異文化適応能力を身につけ、複数の外国語運用力を習得した者に学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html ）
（概要） グローバル学部では、社会人として必要な教養や知識を身につけるための「武蔵野 INITIAL（共通科目）」と、人文科学・社会科学諸分野の基礎的な知識を習得するとともにグローバル社会の課題を認識し、その解決策を提案できる能力を養成するための「学科科目」によって教育課程を編成する。また、専門教育は少人数の授業や学生が主体的にかかわるプロジェクト型の授業を中心に展開する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html ）
（概要） 本学部は、言語や文化背景が異なる学生が共に学ぶ環境の中で、英語、中国語、日本語の語学力とグローバルな思考を身につけ、世界を舞台に将来活躍できる人材を育成します。よって、以下のような者の入学を求めます。 グローバル社会で活躍する高い意欲を有する者 異文化コミュニケーションと異文化理解に強い関心を有する者 語学力を生かして実社会の課題解決に取り組む意欲を有する者 グローバル化が進むビジネスの世界で自身の能力を発揮したいと志す者 日本の魅力を世界に発信する意欲を有する者

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、法律学又は政治学の専門的な知識を養い、普遍的なものの見方、考え方を身につけ、共生の視点を持って課題発見・解決のできる人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html ）
（概要） 法学部では、建学の精神を身につけ、法律学と政治学に関し、学士課程教育の水準を達成した学生に学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html ）
（概要） 武蔵野大学法学部は、「新世代法学部」を標榜し、学生個々人が、社会の中の一員として、周囲の人々の利益を意識しつつ自らの幸福を実現することを目標とし、「共生」の精神のもとに社会のリーダーとしてルール作りをしていける人材の育成を目指す。すなわち、個人の幸福追求と公共領域の確立とを両立させることのできる人材育成を行うことをカリキュラム編成の基本方針とする。全学での4学期制の採用に伴い、新しいカリキュラム・ポリシーを採用し、法律学科では法の系統樹に沿って民事基本法から集中的に学ぶ合理的かつ効率的な学びの仕組みを採用し、政治学科では4学期制のメリットを最大限に生かして留学や学外活動等を容易にしたカリキュラムで国際人の養成を目指す。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html ）
（概要） 本学部は、法律学、政治学の専門知識を活用して、企業、地域、地方公共団体、国、世界、というあらゆる段階の「自己の属する集団」において、最適なルールを創り、その集団のリーダーとなって、構成員を幸福にしていける人材を育成しようとする、「新世代法学部」です。多様な価値観を受け入れ、豊かな想像力をはぐくみ、これからの地球社会の持続可能性等、さまざまな問題に柔軟に対処して、人々と共に幸福を追求しようとする人を求めます。したがって、入学者に求めるのは、人々の価値観の相対性などを理解できる、精神的な成熟度の高さです。さらに、グローバル化の時代に即した能力として、高校時代になるべく英語力をつけてきてほしいと考え、筆記試験型の入試では 2017 年度から英語力の比重を高めた評価を実施しています。

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、経済学の専門的な知識を養い、普遍的・科学的なものの見方、考え方を身につけ、共生の視点を持って課題発見・解決のできる人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html ）
（概要） 経済学部では共生の視点に立脚しながら、学科科目を中心に修得した普遍的・科学的方法によって現代社会の課題を発見し、解決できる能力を身につけ、かつ所定の卒業要件を満たした者に学士（経済学）の学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html ）
（概要） 経済学部では建学の仏教精神を土台にし、外国語の習得や、社会人として必要な教養や知識を身につけるための「武蔵野 INITIAL」を中心とした「共通科目」と、経済学を中心とする社会科学の普遍的方法を身につけ、専門人としての知見を深めるための「学科科目」によって教育課程を編成する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html ）
（概要） 経済学部では建学の理念である仏教精神を基盤に、経済学に関する専門的な知識を修得し、グローバルな視点で現代社会・経済における課題を発見し、その分析・判断および解決に向けた論理的思考力を養います。したがって、入学者には現代社会・経済についての広い問題関心と、普遍的・科学的なものの見方が求められます。

学部等名 経営学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html ）
（概要） 仏教精神を根幹として、世界の幸せの実現に向け高い倫理観と共生の視点を育成するとともに、経営学及び会計学における専門知識と技能を修得し、多様で複雑化するビジネス分野及び非営利・公共分野等において、多様な諸問題を発見・解決できる実践的な能力を身につけた人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html ）
（概要） 経営学部では、経営学科ならびに会計ガバナンス学科が定める卒業要件を満たし、高い倫理観と共生の視点を身につけ、経営学と会計学における専門知識と技能をもとに多様な諸問題を発見・解決できる実践的な能力を習得した者に学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html ）
（概要） 社会人として必要な教養や知識を身につけるための「武蔵野 INITIAL（共通科目）」と、経営学科ならびに会計ガバナンス学科がそれぞれ特色ある知識と技能を修得するために展開する「学科科目」によって教育課程を編成する。現代社会の発展の礎にある普遍的・科学的な思考法や研究方法に基づく合理的な思考と、高い倫理観と共生の視点を持って、世界が抱える課題の発見・解決に貢献できる人材の育成を目的とする。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html ）
（概要） 本学部では、仏教精神を根幹として、世界の幸せの実現に向け高い倫理観と共生の視点を育成するとともに、経営学及び会計学における専門知識と技能を修得し、多様で複雑化するビジネス分野及び非営利・公共分野等において、多様な諸問題を発見・解決できる実践的な能力を身につけた人材を育成する。

<p>学部等名 アントレプレナーシップ学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html）</p>
<p>（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、起業家精神（アントレプレナーシップ）を抱き、既存の枠を超えて新たな価値を創造できる実践的な能力を身につけた人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html）</p>
<p>（概要） アントレプレナーシップ学部では、所定の卒業要件を満たし、かつ変革期を機会と捉え、社会に対して傍観者でとどまることなく高い倫理観と志を抱いて自ら課題を設定、事業構想し自立自走することで「ことを成す」実践的な能力を身につけた者に学士（ビジネス）の学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html）</p>
<p>（概要） アントレプレナーシップ学部では、仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、起業家精神（アントレプレナーシップ）をもって、新たな価値を創造できる実践的な能力を身につけた人材を養成するため、武蔵野 INITIAL で教養、データ AI/活用及びプログラミングの知識を育み、学科の専門教育では、事業推進スキル、領域別専門知識、アントレプレナーシップ（起業家精神）、思考力（論理的思考・創造的思考力）、意思決定力、課題解決力、PDCA 力、コミュニケーション力/マネジメント力などの専門的な知識・能力を体系的に修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html ）</p>
<p>（概要） 本学部では、仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、起業家精神（アントレプレナーシップ）を抱き、既存の枠を超えて新たな価値を創造できる実践的な能力を身につけた人材を育成する。</p>

<p>学部等名 データサイエンス学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html）</p>
<p>（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、データ、メディアコンテンツ及びそれらの分析・統合による「知の創造」を対象とする新しい学術を志向し、多くの応用の発展を実現できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html）</p>
<p>（概要） データサイエンス学部では、以下の要件を満たし、所定の卒業要件を満たした者に学士（データサイエンス学）の学位を授与する。 1. 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を身につけていること。 2. データ、メディアコンテンツ及びそれらの分析・統合による「知の創造」を対象とする実践知を持続的に学習する能力を身につけていること。 3. データサイエンスの学術的な知識やスキルを活用し、多様な社会的応用を具現化できる能力を身につけていること。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html）</p>
<p>（概要） データサイエンス学部学位授与方針に示す人材育成目標を達成すべく、人工知能(機械学習)の可能性を取り込んだ最先端のデータサイエンス学の構築を目標にその理念に基づいたカリキュラムを編成し実施している。 教育カリキュラムの基本構図は以下の3つである。 「テーマを選ぶ」： 広く実世界の 이슈を直接知る機会を提供することにより自分の問題意識を育成し、学部での学習テーマを選ぶことを支援する科目群を提供すること。 そのために教養科目群（武蔵野 INITIAL）の CHP 科目群および世界体験を通じたフィールドスタディーズ科目群を活用するとともに、2年次生からの社会体験プログラムも用意している。 「知識とスキルを学ぶ」： データ(工学)と人工知能(工学)を二本柱とした多様な知識とスキル(先進的なツール)を実践的かつ反復的に学習するインターディシプリナ科目群を提供する。 「価値創出を実践する」： 自分の選んだ、実世界 이슈を、学んだスキルと知識を活用して、社会的な価値を創るプロジェクト型学習の科目群を1年次から提供し、社会実装を経験する。 さらに、学習者本位の教育を実現すべく、教育・学習の基本的な方法論については、試行錯誤プロセス、アウトプット志向を重視する「アジャイル教育」、自律的・能動的な学習を促すグループ協調学習などを専門科目の全科目で統一的に導入する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html）</p>
<p>（概要） 本学部では、SDGs に代表される多様分野においてデータサイエンスを駆使した課題発見と人工知能を活用した課題解決や価値創造を担う創造的活動を先導する人材を育成します。</p>

<p>学部等名 人間科学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html）</p>
<p>（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、人間が直面する歴史的・社会的諸課題を、心理、生命、社会、福祉などの側面から科学的に理解し、実践的に解決できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html）</p>
<p>（概要） 人間科学部では、以下の要件を満たし、各学科所定の単位を修得した者に学位を授与する。 1. 科学的、論理的な思考能力と人間に関する多面的、専門的な知識を身につけていること。 2. 人間が直面する歴史的、社会的諸課題を分析し、主体的、実践的に解決できる力を身につけていること。 3. 真の人間尊重の立場にたち、これらの知識と能力を社会のために活用できる総合的な人間力を身につけていること。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html）</p>
<p>（概要） 「武蔵野 INITIAL」（全学共通基礎課程）において学部の専門教育に必要な基礎力を修得するために必要な科目を配置するとともに、専門教育においては、人間が直面する歴史的・社会的諸課題を心理、生命、社会、福祉などの側面から科学的に理解し、実践的に解決できる力を身につけるために必要な専門科目を年次進行にそって段階的・体系的に配置することを教育課程編成の基本方針とする。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html ）</p>
<p>（概要） 本学部は、人間科学、社会福祉学等の学びを通して、人間尊重の立場から、社会の諸課題を分析し、解決して行けるような総合的な人間力を備えた人材を育成します。それぞれの学科によって、大学教育における目標、入学者に求める能力は異なりますが、ここでは学部に通ずる求める能力について挙げています。人間科学部が求める者は以下のような能力、意欲を持つ者です。 人間の心理、生命、社会、福祉に関心を持ち、多面的に学びたいという意欲を持った者。 基礎となる教養に幅広く触れようとする姿勢を有しており、基本的な学力を持つ者。情報を自ら蒐集しようとする姿勢を持つ者。他者の考えを聞き、自らの考えを述べ、文章に表すことの出来る者。</p>

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、専門的な知識を養い、持続可能な社会構築に向けて主体的に参画し、工学的手法により課題解決のできる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html ）
（概要） 工学部では、希望が持てる未来を築くために、持続可能な社会に求められる、環境システム、数理工学、または建築デザインの知識と技術を修得し、工学的アプローチから課題解決ができる力を身に付け、かつ、所定の卒業要件を満たした者に学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html ）
（概要） 工学部では、学修の基礎力を養うための「武蔵野 INITIAL」の諸科目に続き、持続可能な社会に求められる、環境システム、数理工学、または建築デザインの知識と技術を修得し、工学的アプローチから課題解決ができる力を身に付ける「学科科目」を体系的に編成した教育課程を適切に実施する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html ）
（概要） 本学部は、希望が持てる未来を築くために、持続可能な社会に求められる、環境システム、数理工学、建築デザインの知識と技術を身に付け、工学的アプローチから課題解決ができる人材を育成する。したがって、選択する学科に対する明確な志望動機に加えて、自身を超えた困難な課題に果敢に挑戦する勇気と、諦めずに創意工夫し続ける粘り強さを持った者を求める。

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、幅広い視野を持って教育及び教育支援に携わることのできる人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html ）
（概要） 教育学部では、学識・情操・品性に優れた人格、教育に対する幅広い視野、そして保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭にふさわしい汎用的能力を身につけた学生に学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html ）
（概要） 教育学部では、社会人として必要な教養や知識を身につけるための「武蔵野 INITIAL（共通科目）」と保育ならびに教育の本質を学び研究する理論科目と保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭のための実践科目とでカリキュラムを構成している。また、保育・教育実践を複数単位化し、数多くの実践経験を踏まえて現場に立つことを目指している。これらのカリキュラムを履修することで、保育・教育にふさわしい汎用的能力を身につけることを目指している。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html ）
（概要） 本学部は、子供の成長・発達の過程を深く理解し、子供や保護者と円滑にコミュニケーションがとれる保育・教育の専門家を育成します。子供の成長や発達を長いスパンでとらえ、保育・教育の過程を全体的、多角的に理解していく意欲・柔軟性・知的好奇心を持った者を求めます。

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、慈悲の心を持ち、多様な薬学関連分野で人々に貢献できる人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html ）
（概要） 薬学部では、所定の卒業要件を満たし、かつ、薬学知識に加え、高度な専門知識と実践力、高い倫理性を兼ね備えている学生に、学士（薬学）の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html ）
（概要） 医療の一翼を担う人材として、確かな知識・技術と高い倫理観をもつ薬剤師を育成するために、カリキュラム体系を「武蔵野 INITIAL」（基礎的な共通科目）と「学科科目（専門科目）」に区分し、学科の専門科目は「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基本として、薬学の専門的な知識・能力を体系的に修得できるよう教育課程を編成し、実施する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html ）
（概要） 本学部は、教養教育から基礎薬学教育、医療薬学教育へと系統的な教育を行うことで、医療人としての高い倫理観と高度な専門知識を兼ね備えた実践力のある薬剤師を育成することを目的としています。わが国の医療の一翼を担う人材として、薬学の知識修得に必要な基礎学力を有するとともに、人間性豊かで高い志を持ち、広く社会に貢献しようという意欲を持った者を求めます。

学部等名 看護学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html ）
（概要） 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、人の「生老病死」と看護は密接に関係することを認識し、人々の健康及び福祉の向上に貢献できる人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html ）
（概要） 看護学部では、仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれ、人の「生老病死」に関係することを認識し、人々の健康及び福祉の向上に貢献でき、かつ、所定の要件を満たす者に学士（看護学）の学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 WEB サイト https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html ）
（概要） 看護学部では、仏教精神を基盤とした人間性豊かな専門職の育成を目的として、教養教育及び看護学の専門教育を体系化したカリキュラムを編成する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html ）
（概要） 本学部は、「慈悲の心」を持ちながら、人の生老病死に寄り添い、痛みや苦しみ、喜びや楽しみをともに分かち合える豊かな人間性と倫理観、そして確かな専門知識・技術に裏打ちされた実践力を兼ね備えた看護師を育成します。看護専門職に必要な基礎的能力を身につけ、社会のさまざまな領域で人々の健康及び福祉の向上に貢献できる看護実践者及び将来の看護指導者を目指す者を求めます。

学部等名 通信教育部 (人間科学部)
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.mu-tsushin.jp/university/outline)</p>
<p>(概要) 人間科学部人間科学科は、現代社会や現代人が抱える心の問題を心理学、仏教学又は社会福祉学の側面から考え、人間の心の本質を探究し、総合的視野で深く人間を理解できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/policy)</p>
<p>(概要) 人間科学部 通信教育部人間科学部では、以下の要件を満たし、各学科・専攻所定の単位を修得した者に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的・科学的な思考能力と、人間に関する多面的で専門的な知識を身につけていること。 2. 人間が直面する歴史的・社会的諸課題を分析し、主体的かつ実践的に解決できる力を身につけていること。 3. 真の人間尊重の立場にたち、これらの知識と能力を社会のために活用できる総合的な人間力を身につけていること。 <p>人間科学科 (専攻共通) 心理学・仏教学・社会福祉学の知識を修得し、人間尊重と科学的人間理解にもとづき行動・実践し、社会に貢献する人材を育成します。 具体的には、人間尊重の精神、主体性、思考力、実践力を育成します。 専門能力について、仏教、人間の心理、社会のシステムや歴史、制度・専門職倫理などの知識に依拠した、総合的な人間理解力を修得します。 人間尊重の精神について、仏教精神にもとづく人間尊重の倫理・道徳観・価値観を身につけます。 主体性について、人間が直面する様々な問題を自ら積極的に考え、継続してその解決に取り組む力を身につけます。 思考力について、自ら設定した課題の情報を適切に収集・分析し、解決に向けて科学的、論理的に考える力を身につけます。 実践力について、自らの考えを明確かつ論理的な文章にまとめ、分かりやすい発信・発表・表現を行う力、倫理や専門知識を基盤とした専門職としての姿勢や行動を行える力を身につけます。 その上で、社会に貢献する人材、大学院等に進学する人材を育成します。</p> <p>心理学専攻 建学の仏教精神に基づいた人間尊重の立場に立った学修を行い、所定の単位を修得するとともに以下の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心理学の基本的知識、体系的知識を身につけていること ・ 医療、産業、教育、社会福祉等々の各分野において心理学およびメンタルヘルス、カウンセリングの基本的な知識と技術を用いて貢献できること <p>仏教学専攻 建学の仏教精神にもとづいた人間尊重の立場に立った学修を行い、所定の単位を修得するとともに以下の要件を満たした者に学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教思想や仏教文化に関する総合的・体系的な知識を身につけていること ・ 宗教関連、教育関連、メディア関連、社会福祉関連、等々の各分野において仏教精神に依拠した専門性を発揮しながら、自立した職業人として活躍できる資質と能力を有すること

社会福祉専攻

建学の仏教精神に基づいた人間尊重の立場に立った学修を行い、所定の単位を修得するとともに以下の要件を満たした者に学位を授与します。

- ・ 社会福祉の理念－制度－実践、ソーシャルワークの専門的価値及び倫理－知識－技術、ミクローメゾ－マクロレベルといった重層的かつ包括的な学びを通して、社会福祉およびソーシャルワークの基本的な倫理・価値観・知識・技術を身につけていること
- ・ 社会変革の担い手となるマインドを身につけていること
- ・ 支援者としての自己の価値観を見つめられる技術を身につけていること

DP1.知識・専門性 【学びの基礎力を基盤とした専門能力】

- ・ 自ら教養・基礎学力を修得し、自立的・主体的に学ぶことができる【教養・基礎学力】
- ・ 人間の心理や行動を科学的に理解し、心理学的知識に基づいた総合的な人間理解力を修得している【心理学専攻：専門能力】
- ・ 仏教思想や仏教文化に基づいた総合的・体系的な人間理解力を修得している【仏教学専攻：専門能力】
- ・ 社会福祉に関する理念－制度－実践、ソーシャルワークの専門的価値及び倫理－知識－技術をミクローメゾ－マクロのレベルで体系的に理解し、他者に説明し実践できる【社会福祉専攻：専門能力】

DP2.関心・態度・人格 【他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力】

- ・ 自己と他者への深い洞察にもとづいて、多様な価値観を尊重し、社会において様々な人々と円滑な関係を築くことができる。【自己認識力・他者理解力】
- ・ 社会における諸課題を発見し、共感的理解にもとづいて課題を分析・説明することができる【課題発見力】
- ・ 人間が直面する様々な問題について自ら積極的に考え、継続してその解決に取り組むことができる。【主体性・実行力】
- ・ 人間社会のストレスの問題について理解し、自己の心理的課題について対処することができる【ストレスコントロール力】
- ・ 人間尊重と社会正義の実現に向けて行動しようとする意志を持ち、仏教精神にもとづく人間尊重の倫理・道徳観・価値観を身につけている。【人格形成・使命感】

DP3.思考・判断 【課題を多角的に捉え、創造的に考える力】

- ・ 適切に情報を収集・分析し、かつ建設的な議論を踏まえ、課題解決に向けて科学的・論理的に考えることができる。【情報分析力・論理的思考力】
- ・ 自ら設定した課題について、心理学・仏教学・社会福祉学の立場から多角的な理解と提案ができる。【創造的思考力】

DP4.実践的スキル・表現 【多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力】

- ・ 専門的知識と実践力にもとづく共感的なコミュニケーションを通して、様々な人々と相互理解を深めることができる。【コミュニケーション力】
- ・ 自らの考えを、読み手・聞き手の立場に立った明確かつ論理的な文章や図表にまとめ、分かりやすい発表・情報伝達をおこなうことができる。【表現力・プレゼンテーション力】
- ・ 目的の実現に向けて、人間に対する深い理解にもとづき、他者と協力・協働しながら課題に取り組むことができる。【傾聴力・リーダーシップ・チームワーク力】

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/policy>)

(概要)

人間科学部

通信教育部人間科学部では、人間尊重の立場から、社会の諸課題を分析し解決に向けて、貢献できる総合的な人間力を備えた人材を養成するため、共通科目で専門教育に必要な基礎力を育み、専門教育では、心理学、仏教学、社会福祉学などの専門的な知識・能力を体系的に修得できるよう次の通り教育課程を編成し、実施する。

- ・ 一般教養を学ぶ「共通科目」において学部での専門教育に必要な基礎力を修得するために必要な科目を配置する。
- ・ 専門科目を学ぶ各専攻の「学科科目」においては、人間が直面する歴史的・社会的諸課題を心理学、仏教学、社会福祉学などの側面から論理的・科学的に理解し、実践的に解決できる力を身につける。そのために必要な専門科目を年次進行にそって段階的・体系的に配置する。
- ・ 各科目の学修内容に即した、適切な学修方法を設定する。「テスト(科目)」では専門知識の定着を、「レポート(科目)」では論理的思考や文章表現能力の醸成を、「スクーリング(科目)」では教員や学生との双方向の学習によるアクティブな思考と言語的表現の醸成を、それぞれねらいとする。科目により複数の学修方法を組み合わせることで学修を進める。
- ・ 演習科目、実験科目、実習科目、研修科目等の設定により、学生の参加や実践を通じて、知識と経験をつなげる「アクティブラーニング」を推進する。

人間科学科(専攻共通)

心理学・仏教学・社会福祉学の知識を修得し、人間尊重と科学的人間理解にもとづき行動・実践し、社会に貢献する人材に求められる知識・能力を育成するため、以下の教育課程を編成する。共通科目では、建学の仏教精神を培う「建学科目」(必修)、テーマに沿って学び、思考力や表現力などの能動的な能力、問題発見・解決能力を伸ばす「セルフディベロップメント科目」、外国語やメディアに関する「コミュニケーション科目」を体系的に履修する。各専攻において心理学、仏教学、社会福祉学の専門科目を学ぶ前提として、SDGsや共生に関する知識を含めた社会および人間についての教養について、理解を拡げ、深める。学科科目は、それぞれの専攻において、専攻の学修の基礎・基幹となる「必修科目」と、学修者の関心に沿って選択される「選択科目」によって編成されている。基礎科目および基幹科目は、主に1年次と2年次に配当され、応用・実践力を身につけさせる選択科目との連携を図っている。

また、授業の実施にあたっては、「テスト(科目)」では専門知識の定着を、「レポート(科目)」では論理的思考や文章表現能力の醸成を、「スクーリング(科目)」ではアクティブな思考と言語的表現の醸成をそれぞれ行い、論理的・科学的な思考能力と人間に関する多面的で専門的な知識を身につけていること、人間が直面する歴史的・社会的諸課題を分析し、主体的かつ実践的に解決できる力を身につけていること、真の人間尊重の立場にたち、これらの知識と能力を社会のために活用できる総合的な人間力を身につけていること、という学位授与方針に定める能力・知識を養う。

心理学専攻

心理学専攻の学科科目には、学修者が目的や関心に合わせて入学時に選択する、「スタンダード心理学コース」「臨床発達心理コース」「カウンセリングコース」「看護・医療心理コース」「産業カウンセリング/キャリア・コンサルティングコース」の5つのコースにより、その領域に特有の専門科目が配置されている。心理学専攻学科科目は、「コース共通科目」と、5つのコースの学修の中心となる科目群から構成される。

コース共通科目は、心理学の基礎を学ぶ「基礎科目」・「基幹科目」・「専攻科目」、履修

者の学修関心を発展させる「発展科目」「仏教学専攻選択科目」「卒業研究」から構成されている。

各コースには、コースの基軸となる「基幹科目」および「領域の基礎」科目、そして「専門・応用」科目から構成されている。各コースの科目は選択科目として設定され、履修者の関心に応じて選択したコース以外の科目も履修可能である。

所定の科目を履修すると申請資格「認定心理士」の取得が可能である。

仏教学専攻

仏教学専攻の学科科目は、「基礎科目」「仏教基礎科目群」「浄土教科目群」「仏教思想科目群」「仏教文化科目群」、そして「浄土真宗本願寺派教師資格科目群」「人間科学科目群」から構成されている。

必修である「基礎科目」で仏教学の基礎を固める。「仏教基礎科目群」「浄土教科目群」「仏教思想科目群」では、「入門」科目、「読む①」「読む②」科目を連携して履修し、各経典について理解を深める。発展の自由研究として「仏教聖典を語る」を履修し各経典について履修者自身が解釈を行う。また、「仏教文化科目群」では文化や実践を通して仏教の理解を深める。

所定の科目および「浄土真宗本願寺派教師資格科目群」を履修することで、浄土真宗本願寺派教師資格に必要な単位を満たすことが可能である。「人間科学科目群」では現代社会における生・老・病・死について理解を深める。

社会福祉専攻

社会福祉専攻の学科科目は、「社会福祉系科目」「演習・実習系科目」「実践系科目」「自己育成能力開発科目」「認定心理士科目」「心理・仏教学系科目」から構成されている。

「社会福祉系」科目は、必修のテスト科目を中心に、社会福祉およびソーシャルワークに関する理念・制度・技術に関する基礎的知識を得る。「演習・実習系科目」では、レポート作成により実践的思考を涵養する。また、現場実習（「ソーシャルワーク実習1・2」および「ソーシャルワーク実習指導1・2・3」）では、実践経験を通してソーシャルワークの現場での意味や役割、支援者（ソーシャルワーク専門職）としての自己の思考や姿勢について理解を深める。「実践系科目」では、社会福祉系科目で学んだ知識を、より実践的な理解を深める。「自己育成能力開発科目」では、既存の知識の確認や新しい知識の補強を行う。所定の科目を履修することにより、国家資格「社会福祉士」の受験資格を得ることができる。

また、「認定心理士科目」では隣接の心理学の知識を得るとともに、所定の単位を履修し申請資格「認定心理士」の取得を可能としている。「心理・仏教学系科目」では選択により、実践的な仏教に関する科目を含め、重層的・包括的な学修を深める。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/policy>）

（概要）

通信教育部人間科学部では、人間尊重の立場から、社会の諸課題を分析し解決に向けて、貢献できる総合的な人間力を備えた人材を育成します。

年齢・年代や地域、時間等に縛られないインターネットを介した通信教育では、自己管理のもとで学修を進行していきます。

通信教育部人間科学部が求める者は、以下のような能力、意欲を持つ者です。

1. 人間の生き方、哲学、心理、社会、福祉に関心を持ち、多面的・積極的に学びたいという意欲を持つ者

2. 基礎となる教養に幅広く触れようとする姿勢を有しており、基本的な学力を持つ者
3. 通信教育課程に積極的に取り組む姿勢を持ち、達成能力を持つ者
4. 自主的に時間管理ができる者
5. 社会に貢献する意欲を持つ者
6. 情報を自ら収集し、自ら考えようとする姿勢がある者
7. 他者の考えを聞き、自らの考えを述べ、文章に表すことのできる者

学部等名 通信教育部 (教育学部)
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.mu-tsushin.jp/university/outline)
(概要) 教育学部教育学科は、児童生徒の成長・発達に関する知識を学習し、児童生徒を健やかに育むための技術と実践力を身につけ、教育とその支援活動を行える、高い人格と専門的な実践力・企画力をもった教育者の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/policy)
(概要) 教育学部 通信教育部教育学部では、学識・情操・品性の優れた人格、教育に対する幅広い視野、そして小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭にふさわしい汎用的能力を身につけた学生に学位を授与する。 教育学科 教育学科では、所定の 124 単位を修得し、以下の要件を備える者に学士 (教育学) の学位を授与する。 1. 小学校教諭免許状又は中学校・高等学校教諭免許状の取得を前提として、自己の目指す資格・免許の取得に必要な知識と技術を身につけていること。 2. 児童期あるいは青年期の子どもの発達を特に深く理解するとともに、児童期から青年期までの子どもの発達全体の見通しを持つことができる者。 DP1. 知識・専門性 【学びの基礎力を基盤とした専門能力】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら教養・基礎学力を修得し、自立的・主体的に学ぶことができる【教養・基礎学力】 ・ 自ら子どもの成長や発達を理解し、社会環境の変化に対応できる知識と実践力を身につけている。【専門能力】 ・ 自ら教育の原理や方法を身につけ、集団的及び個別的に実践できる専門的能力を修得している。【専門能力】 DP2. 関心・態度・人格 【他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら問題意識を持ち、教育を実践することができる。【主体性・実行力】 ・ 社会に貢献できるような柔軟性と心身を自己管理する力を身につけている。【ストレスコントロール力】 ・ 教育者としての倫理観、使命感を持っている。【人格形成・使命感】 DP3. 思考・判断 【課題を多角的に捉え、創造的に考える力】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら幅広い分野の知識を身につけ、教育状況を多角的、論理的に分析できる。【情報分析・論理的思考力】 ・ 様々な教育の状況に応じて、新たな方法を模索することができる。【創造的思考力】 DP4. 実践的スキル・表現 【多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育場で言語・非言語メッセージを読み取り、豊かなコミュニケーションができる。【コミュニケーション力】 ・ 授業計画を立て、教材や授業に表すことができる。【表現力】 ・ 自らの考えを明確に話したり、書いたりすることができる。【表現力】

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/policy)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育学部 通信教育部教育学部では、学部の専門教育に必要な基礎力を修得するために共通科目を編成するとともに、専門教育においては、子どもを育み、教える立場に立つ者が備えるべき資質の育成並びに教員として実践力・即戦力を育成するためのカリキュラムを編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「教科及び教科の指導法に関する科目」では、各教科の学習指導を行う際に必要な基礎的・基本的な知識・技能並びに指導法を履修する。 ・ 「教育の基礎的理解に関する科目」では、教育観、指導観、児童観等を深め、児童・生徒の将来にかかわる責務を負う教師としての使命感を培う。 ・ 「道徳、総合的な学修の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」では、一人一人の児童・生徒を認め、励まし、伸ばす指導について理解を深め、豊かな人間性を育む指導について履修する。 ・ 「教育実践に関する科目」では、教育実習などを通じて、実践力を身に付ける。 <p>教育学科 通信教育部教育学科では、共通科目を踏まえ、専門教育として学科の小学校専修、国語科専修、英語科専修の各専修に対応して、以下のようにカリキュラムを編成する。 教職においては、円滑な人間関係の構築やコミュニケーション能力が極めて重要なため、スクーリングでは協議・討議等の他者とかかわる活動を重視し、学識・情操・品性の優れた人格、教育に対する幅広い視野、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭にふさわしい汎用的能力を身につけるとい学位授与方針に定める能力・知識を指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学科の共通科目では、建学の精神を培う「建学科目（必修）」、テーマに沿って学び、思考力や表現力などの能動的な能力、問題発見・解決能力を伸ばす「セルフディベロップメント科目」、外国語と体育に関する「コミュニケーション科目」「健康体育科目」を体系的に履修させ、国際化や体力が脆弱化した現代社会に対応できる能力を身につけさせる。 2. 小学校専修は、小学校教諭を養成する専修であり、児童期の心身の発達に関する科目と初等教育に関する科目を置く。 3. 国語科専修は、中学校教諭（国語）・高等学校教諭（国語・書道）を養成する専修であり、青年期の心身の発達に関する科目と中等教育に関する科目を置く。 4. 英語科専修は、中学校教諭（英語）・高等学校教諭（英語）を養成する専修であり、青年期の心身の発達に関する科目と中等教育に関する科目を置く。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/policy)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育学部 子どもの発達を長いスパンでとらえ、教育と学習の過程を全体的、多面的に理解していく意欲を持った者を求める。</p> <p>教育学科 入学者の受け入れ方針として、以下のような能力・意欲を有する者を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初等教育から中等教育まで幅広い視野に立って多角的に教育現場を捉え、教育及び教育支援に携わることを目指す者。 2. 専門知識・技術はもちろんのこと、幅広い人間性やコミュニケーション能力、広い視野を持った教育のスペシャリストを目指す者。

3. 子どもがどのように育っていくのかを長いスパンで見通すことで、教育、教育支援の対象を子どもだけではなく、保護者や地域の方々を対象と考えられることを目指す者。

入学者選考は、上記方針に基づいて、下記に挙げる点に留意して実施する。

1. 教育学科の教育方針に相応しい人材を多面的に審査・評価する。
2. 基礎学力と専門教育に関係する教科の理解度、並びに人物の適性等について審査・評価する。
3. 学力だけでは見出すことのできない能力や意欲、将来の可能性等を現在の活動状況等から審査・評価する。

また、通信教育では、年齢・年代や地域、時間等に縛られないインターネットを介し、自己管理のもとで学修を進行していくため、以下のような能力、意欲を持つ者を求める。

1. 人間の生き方、哲学、心理、教育に関心を持ち、多面的・積極的に学びたいという意欲を持つ者
2. 基礎となる教養に幅広く触れようとする姿勢を有しており、基本的な学力を持つ者
3. 通信教育課程に積極的に取り組む姿勢を持ち、達成能力を持つ者
4. 自主的に時間管理ができる者
5. 社会に貢献する意欲を持つ者
6. 情報を自ら収集し、自ら考えようとする姿勢がある者
7. 他者の考えを聞き、自らの考えを述べ、文章に表すことのできる者

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/figure.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
文学部	—	13人	0人	3人	1人	0人	17人
グローバル学部	—	15人	6人	8人	0人	0人	29人
法学部	—	17人	7人	1人	0人	0人	25人
経済学部	—	8人	5人	3人	0人	0人	16人
経営学部	—	13人	8人	4人	0人	0人	25人
アントレプレナーシップ学部	—	18人	1人	0人	0人	0人	19人
データサイエンス学部	—	7人	6人	2人	2人	0人	17人
人間科学部	—	22人	4人	4人	7人	0人	37人
工学部	—	20人	6人	5人	1人	2人	34人
教育学部	—	13人	15人	4人	0人	0人	32人
薬学部	—	17人	3人	23人	12人	1人	56人
看護学部	—	9人	6人	9人	7人	5人	36人
通信教育部 (人間科学部)	—	4人	2人	2人	1人	0人	9人
通信教育部 (教育学部)	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
4人		763人				767人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://cv01.ufinity.jp/musashino/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>学長主導のもとで、響学開発センターが主管となって全学FDSD研修会を企画し、令和4年度は「主体的学修者の育成」や「響学スパイラルの推進」等のテーマで開催した。あわせて、各学科・研究科が固有の課題に関連するFDを独自に企画・実行したほか、学生参加型のFDも実践した。また、特定のテーマに関心を持つ教員が任意で参加し、ワークショップ形式の研修を実施する「目的別FDSD研修会」を実施した。その他、革新的な授業改善の試みに対して大学が必要経費を助成する「授業改善トライアル」の公募・支援を行い、一連の活動実績を冊子にまとめて学内外に公開した。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	200人	201人	100.5%	815人	822人	100.9%	5人	0人
グローバル学部	300人	237人	79.0%	1,230人	1,061人	86.3%	15人	0人
法学部	290人	298人	102.8%	1,178人	1,135人	96.4%	6人	0人
経済学部	175人	183人	104.6%	709人	736人	103.8%	3人	0人
経営学部	310人	331人	106.8%	1,249人	1,254人	100.4%	3人	0人
アントレプレナーシップ学部	60人	58人	96.7%	240人	178人	74.2%	0人	0人
データサイエンス学部	90人	98人	108.9%	360人	348人	96.7%	0人	0人
人間科学部	360人	367人	101.9%	1,458人	1,450人	99.5%	6人	0人
工学部	200人	212人	106.0%	800人	820人	102.5%	0人	0人
教育学部	220人	209人	95.0%	880人	860人	97.7%	0人	0人
薬学部	145人	136人	93.8%	870人	828人	95.2%	0人	0人
看護学部	125人	117人	93.6%	500人	493人	98.6%	0人	0人
通信教育部 (人間科学部)	250人	174人	69.6%	2,400人	3,036人	126.5%	700人	245人
通信教育部 (教育学部)	15人	4人	26.7%	225人	154人	68.4%	55人	13人
合計	2,740人	2,625人	95.8%	12,916人	13,176人	102.0%	793人	258人
(備考)								
<ul style="list-style-type: none"> ・入学者数については、再入学者数は含めない。 ・編入学生数については、基本調査様式 8号において、海外の大学からの編入学生数は計上しないため計上なし。 								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	182人 (100%)	6人 (3.3%)	152人 (83.5%)	24人 (13.2%)
グローバル学部	208人 (100%)	9人 (4.3%)	154人 (74.0%)	45人 (21.6%)
法学部	236人 (100%)	14人 (5.9%)	186人 (78.8%)	36人 (15.3%)
経済学部	186人 (100%)	9人 (4.8%)	155人 (83.3%)	22人 (11.8%)
経営学部	264人 (100%)	11人 (4.2%)	215人 (81.4%)	38人 (14.4%)
政治経済学部	1人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (100%)
フェーザイェンス学部	62人 (100%)	5人 (8.1%)	56人 (90.3%)	1人 (1.6%)
人間科学部	314人 (100%)	24人 (7.6%)	272人 (86.6%)	18人 (5.7%)
工学部	175人 (100%)	21人 (12.0%)	139人 (79.4%)	15人 (8.6%)
教育学部	199人 (100%)	8人 (4.0%)	178人 (89.5%)	13人 (6.5%)
薬学部	137人 (100%)	5人 (3.6%)	128人 (93.4%)	4人 (2.9%)
看護学部	132人 (100%)	5人 (3.8%)	124人 (93.9%)	3人 (2.3%)
通信教育部 (人間科学部)	688人 (100%)	55人 (8.0%)	488人 (70.9%)	145人 (21.1%)
通信教育部 (教育学部)	35人 (100%)	1人 (2.9%)	21人 (60.0%)	13人 (37.1%)
合計	2,096人 (100%)	173人 (6.1%)	2,268人 (80.5%)	378人 (13.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>【通学制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに、授業科目の授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、予習と復習の具体的な内容、授業計画、教科書などについて記載している。 ・シラバスは大学 WEB サイトに公開をしている。 <p>【通信制】</p> <p>通信教育部の授業科目、学習方法及び内容は、シラバス及び各専攻・専修ページで公表している。授業は、定期試験等を含め、4月15日から2月11日までの間に適切に行う。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>【通学制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験等の学修成果に基づき「S. A. B. C. D. X」で評価している。 <p>なお、評価の基準については、本学のHPにて公開されている。</p> <p><進級の基準></p> <p>https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/guide/9-promotion-faculty/</p> <p><卒業の要件></p> <p>https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/guide/10-graduation-requirements-faculty/</p> <p>【通信制】</p> <p>3つの教育方針</p> <p>http://www.mu-tsushin.jp/university/outline/policy</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本文学文化学科	124 単位	有	160 単位
グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科	124 単位	有	160 単位
	日本語コミュニケーション学科	124 単位	有	160 単位
	グローバルビジネス学科	124 単位	有	160 単位
法学部	法律学科	124 単位	有	160 単位
	政治学科	124 単位	有	160 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有	160 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有	160 単位
	会計ガバナンス学科	124 単位	有	160 単位
アントレプレナーシップ学部	アントレプレナーシップ学科	124 単位	有	160 単位
データサイエンス学部	データサイエンス学科	124 単位	有	160 単位
人間科学部	人間科学科	124 単位	有	160 単位
	社会福祉学科	124 単位	有	160 単位
工学部	サステナビリティ学科	124 単位	有	160 単位
	環境システム学科	124 単位	有	160 単位
	数理工学科	124 単位	有	160 単位
	建築デザイン学科	124 単位	有	160 単位

教育学部	教育学科	124 単位	有	194 単位
	幼児教育学科	124 単位	有	167 単位
看護学部	看護学科	124 単位	有	200 単位
薬学部	薬学科	205 単位	有	306 単位
通信教育部 (人間科学部)	人間科学科	124 単位	有・無	単位
通信教育部 (教育学部)	教育学科	124 単位	有・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 :

https://www.musashino-u.ac.jp/guide/campus/ariake_campus.html

https://www.musashino-u.ac.jp/guide/campus/musashino_campus.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	学年	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本文学文化学科	1	770,000円	180,000円	178,000円	教育充実費
		2～4	770,000円	0円	278,000円	教育充実費
グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科・グローバルビジネス学科	1	870,000円	180,000円	250,000円	教育充実費
		2～3	870,000円	0円	350,000円	教育充実費
		4	770,000円	0円	350,000円	教育充実費
	日本語コミュニケーション学科	1	770,000円	180,000円	250,000円	教育充実費
		2～4	770,000円	円	350,000円	教育充実費
法学部	法律学科・政治学科	1	820,000円	180,000円	178,000円	教育充実費
		2～3	820,000円	0円	278,000円	教育充実費
		4	770,000円	0円	278,000円	教育充実費
経済学部	経済学科	1	770,000円	180,000円	178,000円	教育充実費
		2～4	770,000円	0円	278,000円	教育充実費
経営学部	経営学科・会計ガバナンス学科	1	770,000円	180,000円	178,000円	教育充実費
		2～4	770,000円	0円	278,000円	教育充実費
アントレプレナーシップ学部	アントレプレナーシップ学科	1	770,000円	180,000円	260,000円	教育充実費
		2～3	770,000円	0円	360,000円	教育充実費
データサイエンス学部	データサイエンス学科	1	970,000円	180,000円	330,000円	教育充実費・実験実習料
		2～4	970,000円	0円	430,000円	教育充実費・実験実習料
人間科学部	人間科学科・社会福祉学科	1	820,000円	180,000円	178,000円	教育充実費
		2～3	820,000円	0円	278,000円	教育充実費
		4	770,000円	0円	278,000円	教育充実費
工学部	サステナビリティ学科	1	1,020,000円	180,000円	275,000円	教育充実費
	環境システム学科	2～4	950,000円	0円	275,000円	教育充実費
	数理工学科	1	1,100,000円	180,000円	325,000円	教育充実費
		2～3	1,100,000円	0円	325,000円	教育充実費
		4	950,000円	0円	275,000円	教育充実費
	建築デザイン学科	1	990,000円	180,000円	330,000円	教育充実費
		2	990,000円	0円	380,000円	教育充実費
3～4		990,000円	0円	450,000円	教育充実費	
教育学部	教育学科	1	870,000円	180,000円	222,000円	教育充実費
		2～3	870,000円	0円	312,000円	教育充実費
		4	820,000円	0円	312,000円	教育充実費
	幼児教育学科	1	820,000円	180,000円	222,000円	教育充実費
		2～4	820,000円	0円	312,000円	教育充実費
薬学部	薬学科	1	1,400,000円	180,000円	470,000円	教育充実費
		2	1,400,000円	0円	665,000円	教育充実費・実験実習料
		3	1,400,000円	0円	666,000円	教育充実費・実験実習料
		4	1,400,000円	0円	600,000円	教育充実費・実験実習料
		5	1,400,000円	0円	560,000円	教育充実費・実験実習料
		6	1,300,000円	0円	500,000円	教育充実費・実験実習料

看護学部	看護学科	1	1,220,000円	180,000円	410,000円	教育充実費・実験実習料
		2	1,220,000円	0円	550,000円	教育充実費・実験実習料
		3~4	1,170,000円	0円	570,000円	教育充実費・実験実習料
通信教育部	人間科学部 教育学部	1	160,000円	30,000円	10,000円	補助教材費
		2~4	160,000円	0円	10,000円	補助教材費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>【通学制】 本学では、障害のある学生に対し、障害の内容・状況に応じてサポートを行っている。対象学生の履修科目担当教員には、具体的な配慮事項を明記した文書を配布し、協力を求めている。</p> <p>【通信制】 ①学修・資格取得サポート 通信教育への導入サポート 学修相談員（メンター）によるサポート 学修計画モデルの案内 教員による学修相談会 [看護学コース] 学位取得サポート [社会福祉専攻] 社会福祉実習サポート [教育学部] 教員免許状の取得サポート</p> <p>②WEB サポート WBT（通信教育システム） 学修相談員（チューター）による WEB サポート WEB 辞典の提供 テーマ別のフォーラムを開設 メールマガジンでの定期的な学習情報提供</p> <p>③スクーリングサポート メディア授業の充実 学割の利用</p> <p>④その他の学修サポート 図書館の利用 学内の Wi-Fi ネットワークの提供 オンライン懇談会の開催 「学生教育研究災害傷害保険」の加入</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1年次にキャリアデザイン科目、2、3年次にインターンシップ科目を開講している。また、就職支援ガイダンス、OB・OG 訪問、公務員試験対策講座、キャリア・アドバイザー個別相談、業界・企業研究など様々なプログラムを多数実施している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>健康管理センター（大学保健室及び学生相談室を設置）にて、健康診断や健康相談、精神保健に関すること、応急処置、感染症予防等を行っている。 大学保健室は、応急処置等のほか、学生の健康診断を年1回実施し、希望の学生には健康相談も実施している。 学生相談室は、学生が有意義な学生生活を送れるよう支援することを目的としている。常駐</p>

の相談員（カウンセラー）が学生一人ひとりの悩みや問題をともに考え、学生自ら問題解決を見出せるよう援助している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://cv01.ufinity.jp/musashino/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103830
学校名	武蔵野大学
設置者名	学校法人武蔵野大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		689人	655人	738人
内 訳	第Ⅰ区分	386人	381人	
	第Ⅱ区分	200人	185人	
	第Ⅲ区分	103人	89人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				746人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	25人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	23人		
計	57人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	—	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
GPA等が下位4分の1	87人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	17人		
計	94人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。